

令和元年 12月25日	<h1>病虫害発生予報</h1> <h2>1月号</h2>	茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会
----------------	-------------------------------	------------------------

農薬保管庫や防除器具の点検・整備を行いましょ！

＜ 目 次 ＞


<h3>I. 今月の予報</h3>	
【注意すべき病虫害】	
イチゴ：ハダニ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
促成ピーマン：アザミウマ類・・・・・・・・・・・・・・・・	1
促成トマト：灰色かび病・・・・・・・・・・・・・・・・	2
【その他の病虫害】	
イチゴ，促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ	2
【防除所レポート】	
令和2年版果樹病虫害参考防除例について	3
<h3>II. 今月の気象予報</h3>	

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。
 茨城県病虫害防除所 Tel :0299-45-8200
 予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/>
 フェロモントラップデータ随時更新中

<HP QRコード>



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、寄生葉率（本年値 9.3%，平年値 9.6%）は平年並，発生地点率（本年値 30%，平年値 47%）は平年よりやや低い。
- ② 気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので，発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は，薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また，気門封鎖剤以外については，薬剤抵抗性の発達を抑えるため，IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。なお，薬剤散布は，古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を使用する場合は，薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成ピーマン

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在，寄生花率（本年値 66.7%，平年値 41.5%）は平年よりやや高く，発生地点率（本年値 100%，平年値 78%）は平年並～やや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く，各種ウイルス病を媒介するので発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は，薬液が花や果実にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるため，IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ 天敵を使用する場合は，薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成トマト

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、発病株率（本年値 6.3%，平年値 0.5%）、発生地点率（本年値 29%，平年値 10%）ともに平年より高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、日照時間は平年並または少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、暖房、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 花落ちが悪く残った花弁や罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 薬剤散布は、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並	12月中旬現在、平年並の発生である。向こう1か月の日照時間は平年並か少ないと予想され、発生を助長する条件である。
	灰色かび病		
	アブラムシ類	発生量：平年並～やや多い	12月中旬現在、平年並～やや多い発生である。
ピーマン 促成	うどんこ病	発生量：平年並	12月中旬現在、平年並の発生である。向こう1か月の日照時間は平年並か少ないと予想され、発生を助長する条件である。
	斑点病		
トマト 促成	葉かび病	発生量：—	12月中旬現在、県内一部圃場で発生が認められている。
キュウリ 促成	べと病	発生量：やや多い	12月中旬現在、平年よりやや多い発生である。県内一部圃場で発生が認められている。

令和2年版果樹病虫害参考防除例について

病虫害防除の際には、主要な病虫害の発生生態や例年の発生状況をふまえた上で、効果的な防除時期と薬剤を選定し、体系的な防除対策を講ずる必要があります。また、薬剤耐性・抵抗性の発達を抑えること等も考慮しなければなりません。特に果樹は栽培期間が長く、防除体系が複雑です。そのため、茨城県果樹病虫害参考防除例編成会議では、県監修により6作物7種類の果樹病虫害参考防除例（以下、防除例）を作成し、農薬の適正使用および効果的な防除の推進を図っています。

令和2年版の各防除例について、昨年版からの主な変更点を以下にまとめました（図）。利用にあたっては、これら変更点に十分に注意しましょう。また、過度の農薬散布を防ぎ、農薬による危被害のリスクを下げるためにも、冬季の落葉処理や粗皮削り等の環境にやさしい防除技術を導入した上で、発生予察情報や自分の圃場における病虫害の発生状況を十分確認し、必要に応じた薬剤防除を行うようにしましょう。

なお、令和2年版は、令和元年10月1日現在の農薬登録内容に基づいて作成しています。登録内容は変更になる可能性がありますので、農薬使用時には必ずラベルおよび登録変更に関するチラシ等を確認して適正に使用して下さい。

平成31年版

品目	時期、記載場所	薬剤名等	変更の種類
露地 赤ナシ 無袋栽培	催芽～萌芽期 注意事項欄	—	追加
	新梢伸長開始期(5月上旬) 本欄	ハチハチフロアブル	薬剤の入れ替え
	休眠期 注意事項欄	機械油乳剤95 12月に散布	時期の変更
露地 巨峰	休眠期(3月中～下旬) 注意事項欄	—	追加
	発芽期(4月下旬) 注意事項欄	マネージDF	削除
	8月上旬、8月中旬、収穫直後(9月中～下旬)、落葉前(10月) 本欄	Zボルドー	薬剤の入れ替え
雨よけ 巨峰	休眠期(3月上旬) 注意事項欄	—	追加
	落花後、小豆粒大期 本欄	落花後：オンリーワンフロアブル 小豆粒大期：オーソサイド水和剤80	薬剤の入れ替え
	袋かけ直後(7月上旬) 注意事項欄	コロマイト水和剤	薬剤の入れ替え
	被覆除去後(7月下旬)、収穫直後(9月中～下旬)、落葉前(10月) 本欄	Zボルドー	薬剤の入れ替え
カキ	幼果期(6月下旬～7月上旬) 本欄	ストライド顆粒水和剤	薬剤の入れ替え
クリ	果実収穫期 注意事項欄	—	追加
リンゴ	落花直後(5月上旬) 本欄	スコアMZ水和剤	薬剤の入れ替え
	落花30日後(6月上旬) 注意事項欄	—	追加

令和2年版

変更後の内容	変更理由
テオノックフロアブル/ トレノックスフロアブル	①
モベントフロアブル	②
機械油乳剤95 厳寒期を避け、3月(芽が動き出す前)までに散布	③
パスポート顆粒水和剤	④
黒とう病防除対策の文言の追加	⑤
ムッシュボルドーDF	⑥
パスポート顆粒水和剤	⑦
落花後：オーソサイド水和剤80 小豆粒大期：オンリーワンフロアブル	⑧
マイトコーネフロアブル	⑨
ムッシュボルドーDF	⑩
ジマンダイセン水和剤	⑪
クリンギゾウムシ対象の耕種的防除法の追加	⑫
スコア顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤	⑬
テオノックフロアブル/ トレノックスフロアブル	⑭

図 果樹病虫害参考防除例の主な変更点（薬剤の追加・削除等があった箇所）

○変更理由は以下のとおりです。

【露地赤ナシ無袋栽培】

- ① デランフロアブルが入手しにくい可能性があるため、代替剤を注意事項欄に記載しました。
- ② 浸透移行性を持っているので、ニセナシサビダニ、アブラムシ類を対象として残効が期待されません。
- ③ 対象害虫の呼吸活性が高まる時期に散布することでより高い効果が期待されます。

【露地巨峰】

- ④ デランフロアブルが入手しにくい可能性があるため、代替剤を注意事項欄に記載しました。
- ⑤ マネージDFの令和2年度の流通の見込みが立たないため薬剤は削除します。黒とう病の防除対策として初期防除が重要であるため、その旨の文言を記載します。
- ⑥ 防除効果が高いことや、汚れにくいという現地実績も考慮しました。

【雨よけ巨峰】

- ⑦ デランフロアブルが入手しにくい可能性があるため、代替剤を注意事項欄に記載しました。
- ⑧ より果実の汚れが生じるリスクを低下させるために薬剤を入れ替えました。
- ⑨ ナミハダニに対して効果が高く、汚れにくいという現地実績も考慮しました。
- ⑩ 防除効果が高いことや、汚れにくいという現地実績も考慮しました。

【カキ】

- ⑪ 炭そ病に対する効果が高く、現地での使用実態も考慮しました。

【クリ】

- ⑫ 現地で問題となっているクリシギゾウムシの耕種的防除法として、収穫対象外果実の処理についての記載を追加しました。

【リンゴ】

- ⑬ スコアMZ水和剤が製造中止になったため、代替剤に変更しました。
- ⑭ デランフロアブルが入手しにくい可能性があるため、代替剤を注意事項欄に記載しました。

【ウメ】

※薬剤等の主な変更はありません。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 12月21日から1月20日)

気象庁(12月19日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	20	30	50
	降水量	関東甲信全域	20	40	40
	日照時間	関東甲信全域	40	40	20

[概要]

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<1週目の予報> 12月21日(土曜日)から12月27日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率70%

<2週目の予報> 12月28日(土曜日)から1月3日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

<3週目から4週目の予報> 1月4日(土曜日)から1月17日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類* (FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
※作用機構分類については、病虫害発生予報5月号(平成31年4月25日発表)の防除所レポート参照
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。